

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072400342		
法人名	有限会社ドリームサトウ		
事業所名	グループホームもみじの里		
所在地	群馬県富岡市妙義町上高田846		
自己評価作成日	平成30年6月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成30年7月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな妙義山がすぐ近くにあり、梅や桜の花見、新緑や紅葉など季節を通してバスハイクに出掛け、気分転換を図っています。ホーム敷地内の畑でナス、キュウリ、トマト、大根、モロヘイヤ、ピーマン等を栽培収穫し、旬の野菜を使った手作り料理を工夫を凝らしながら提供しています。歌、踊り、演奏、手品、紙芝居等の慰問を招く際は、入居者様だけでなくご家族や近所の方々にもお声がけをして、より多くの方に楽しんでいただけるよう、また、慰問の回数を増やし楽しめる時間を作るようにしています。災害発生時においては、近隣の皆様の協力と応援をいただくための連絡網が設置されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

災害対策では、地域との協力体制が構築され、10年前から地元地区消防団が避難訓練に参加し、定期的に事業所を訪問するなどの他、隣組の方との緊急応援連絡網を整備している。また、避難訓練を運営推進会議実施日に合わせて行うことで、会議メンバーに避難時の様子を見ていただいている。終末期の支援においては、事業所は積極的に取り組んでおり、看取りについて事業所の方針を家族に説明し同意をもらい、そのために協力してもらえる医療機関との関係を築いて、訪問看護事業所とも連携し、24時間体制で連絡できるようにしている。食事は、事業所の畑で取れた野菜を使って、職員の手作りで野菜中心の食事を提供している。また、畑で作った大根を干して切干大根にしたり、梅やケールでジュースを作ったりして、利用者にとのしんでいただいている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を朝の申し送りの時に再確認し、利用者と職員が共に笑顔で過ごし、穏やかに落ち着いた生活が送れるよう努めている。また、ホール内に掲示し、職員がいつでも確認が取れるようにしている。	事業所を立ち上げた時から地域の方に協力していただいているので、その恩返しをしたいという思いから、地域の方が自然と足を運ぶような温かみのある事業所を目指している。地域のボランティアに来てもらい、交流が絶えないようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人達にチラシや文章で知らせ、催し物(歌や踊り等の慰問、施設のお祭り)の参加を呼びかけている。庭先で地域の人と話すこともある。	事業所は、年間行事に地域の団体の訪問をなるべく多く計画し、催事には近隣の方にも来ていただけるようにチラシ等でお知らせしている。5月には青年会議所主催の「ふるさと探検隊」という企画で、小学生が約40名来訪し利用者と交流があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議や電話相談等で認知症について心配なことがある時は、「相談してください」と呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の日程を前もって文章で連絡し、年間の行事や慰問、施設内の報告をし、各委員会の意見や希望を伺い、日常的な支援に繋がっている。また、家族には利用者のホームでの生活状況を報告して、家族の意見や希望を聞き、それを反映できるよう支援している。	運営推進会議にあわせ、年2回火災を想定した避難訓練を実施し、利用者の様子を見ていただき、参加者から避難時には濡れタオルで口元を覆った方がよいとの意見をもらっている。その他、身体拘束等の適正化について4月から改正された点を、管理者が説明を行っている。	議事録は事業所の行事報告が中心であり、参加メンバーからの質問、意見等の記述が少ないため、双方向的な会議開催に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市が開催する会議に参加し、意見や希望を述べて助言や指導を受けている。会議開催通知や介護保険更新書類を持参し、協力関係を築くよう取り組んでいる。	管理者が市の窓口に出向く時に、事業所の空き情報や職員体制の現状などを伝え相談している。運営推進会議時には、市の担当者からインフルエンザや熱中症の情報提供をうけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝夕の申し送り時を利用して、職員全体が身体拘束の意義を理解した上で拘束しないケアを実践するよう、日頃から話し合っている。	身体拘束をしないケアを宣言し、玄関にその内容を掲示している。車椅子に坐ったまま立とうとする利用者の対応について職員全員で相談しながら、拘束しない方法を模索している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法について学び、職員全体が言葉による虐待なども含めて、虐待を起こさない施設になるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員それぞれが学ぶ機会を持って関係者と話し合い、必要な人に制度が活用できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に分署を渡し、それに沿って口頭でも十分に説明を行い、本人及び家族に理解していただき、納得の上で契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者と家族から意見や希望を聞き、不満や苦情がある場合には、落ち着いた環境でいねいに詳しくお聞きして、管理者と職員が話し合い今後の運営に反映させている。	利用料の支払いやおむつ等を持ってきていただく際に、利用者の様子を伝え、意見や要望等を聞いている。利用者を外に連れ出してもらいたいとの希望に、ドライブにて車窓から景色を眺めたり、牧場に行き動物に触れ合ったりの、企画を行った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時を活用して意見や希望等を出してもらい、話し合いをしている。また、申し送りノートを活用して職員全員が共有できるよう取り組んでいる。	職員会議は必要時に行うが、通常の案件は、毎日の朝夕の申し送り時に、職員から意見や要望を出してもらい解決している。柔らかいものを好む利用者が多くなり、粥を炊けるひと回り大きめの炊飯器の購入希望が出され実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望や考え方を聞き、向上心を持って働けるような環境や条件を整えていく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議ではテーマを基に勉強会を行っている。外部研修を受ける機会を確保するよう努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議や研修会に参加して情報交換等を通じてサービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者は新しい環境に不安なため、声掛けを多くし、常に笑顔で接することで安心して生活が送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることや不安なこと、要望等を入所時に良く聞き入れ、来所時や電話で対応する際は信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族の「その時」まず何が必要かを見極め、利用者にあったサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の趣味や特技、楽しみ等を伺い、日々の生活の中で共に支え合い喜びを分かち合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者について、健康状態や心配事などがあれば家族に相談し、協力し合い共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月の利用料の支払い時や衣類やパット類を持ってきていただく等、面会の機会を増やしている。本人の思い出の品や写真等を身近に置いて、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	昔一緒に過ごした方との関係を切らさないように、入居者の弟が来て手品を見せてくれたり、公民館の自主グループで活動している人たちが来てくれたり、できるだけ事業所に来てもらい交流できるように配慮している。家族と一緒に自宅に外出する方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団レクリエーションによる健康体操、歌、塗り絵、回想法、新聞たみ等を通して、孤立させないように個人の好みに合わせて関わり合い、支え合えるよう支援を努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に悩みや心配事があれば「いつでも気軽に声をかけてください」と伝えて、退所後も相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に本人からの希望意見を聴取している。意思表示が難しい方は家族から意見等を伺い、生活歴や今までの生活状況、表情を参考にして作成している。	自分の話をできる方が少ないので、家族に昔の写真を持ってきてもらい、写真を見ながら、思い出話を引き出している。食べ物の名前は比較的言葉に出しやすいので、好き嫌いなど本人の意向を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から今までの生活や暮らし方、生活環境やサービス利用を聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の1日の様子を観察、記録に残す。(介護スタッフ)また、スタッフ間で日々の様子を伝え合い、現状の把握に努めている。また、本人の有する力を見落とさないよう心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時に本人、家族、スタッフと話し合い利用者に合った介護計画書作成に努めている。体調変化時等は見直し行っている。	介護計画作成者は、週1回の勤務なので、職員から聞いたり、申し送りノートを確認したりして、毎月モニタリングを行い、3ヶ月毎に短期目標を更新している。職員は個人ファイルに綴じている計画書を常に確認しながら、サービス内容を意識した介護を行い記録するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容、気づき等個別に記録している。スタッフ間で情報を共有しケア内容の確認等を行い、また介護計画書の作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々要望に応じてスタッフ間で話し合い、常に本人に合ったサービスが行えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、ボランティア、警察、消防、市役所と協力し、穏やかに安心して暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の要望を聞き、信頼できる医療機関を見つけ、職員が立ち合い支援している。	利用者は職員の付き添いでかかりつけ医に通院しているが、重度化し、通院が困難になった時や看取りを希望する場合には、往診や看取りが可能な医師に変更することもある。管理者は、日頃から地域の医師との関係を大事にし、適切な医療を受けられるように支援したり、看護職員を配置している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の状態を看護職員や医師に伝え相談している。職員間の申し送りや話し合いを重視し、より良い介護を目指している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、病歴、飲み薬、日頃の様子を伝え、適切な治療ができるように努めている。病院関係者とは、日頃から情報交換を行い信頼関係を作っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調不良時や食べられなくなった段階で本人、家族と早めに話し合い、事業所としてできることを伝え、家族の希望により看取りに向けた支援を行っている。	看取りに関する指針を作成し、「看取り介護に関する説明書」、および「緊急時事前確認書」で事業所の対応や考え方を説明して、家族に同意をもらっている。過去1年間に、複数の方の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時、事故発生時の対応をマニュアル化して備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の指導の下、年1回は地域の消防団も訓練に参加し、夜間、昼間を想定し、火災訓練と通報訓練と避難訓練を行っている。近隣の人達の応援をお願いするために緊急応援連絡網が整備され、訓練にも参加している。	年2回の避難訓練のうち1回は、以前より地区の消防団に参加してもらっている。消防団員は顔なじみで、普段から事業所の様子を把握していただいている。隣組10軒の家と緊急時連絡網を作成しており、災害発生時には応援していただける体制づくりが構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導は、言葉遣いに気をつけ、恥ずかしい思いをさせないように気をつけている。馴れ馴れしい言葉や乱暴な言葉かけにならないように注意している。常に、尊敬の気持ちを忘れないようにしている。	トイレ介助をする際には、利用者の羞恥心に配慮して、トイレ入口のドアと便器のある場所に設置しているカーテンを二重に閉めて、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちに添うように、良く話を聞き、自己決定ができるように働きかけ、穏やかに暮らせる環境になるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴、排泄等、一人ひとりの体調に配慮しながら、本人のペースを大切に考え支援している。食事は食べやすいように、入浴は時間帯を考え配慮している。時々、散歩やドライブを楽しんでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡に自分を映して表情を見たり髪をセットしたりして女性らしさを感じている。男性は自分でひげそりを行い、それぞれ身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑や地域で取れた新鮮な野菜を食事に使用し、季節感を感じるように心がけている。また、見た目も美味しく見えるように、赤、緑、黄色の食材を使い工夫し調理をしている。	近所の方からもらった梅で職員がジュースを作り、利用者に飲んでもらったり、朝採りの野菜をその日の食卓に載せたりなど、野菜をたくさん摂れるようにしている。事業所の畑ではケールを栽培しており、収穫後はジュースにして味わい、喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量をチェック表で管理している。不足している時は、一人ひとりの健康状態を観察して、補う工夫と栄養バランスを考えた献立になるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、本人ができるところまでしていただき、できないところは補助や仕上げを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄リズムを把握して、トイレで排泄ができるよう声かけをしている。また、毎日テレビ体操や足の運動、身体を伸ばす体操を組み合わせさせて体力維持に努めている。体調不良で座位が困難な利用者には、ベッド上でのパットやオムツ交換を行っている。	毎日体操をして体力維持に努め、トイレで排泄ができるように支援している。、声かけでトイレに行ける方には、排泄パターン表や本人の様子を見てトイレでの排泄を支援している。体調不良な方や座位保持困難な方は、おむつ介助をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防には、排便のサイクルを知った上で、水分摂取や食物繊維の多い食物を好んで食べていただけるよう提供の仕方を工夫している。食前体操は頑張っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日を設定して支援している。体調不良の利用者には、清拭や着替えのみにする等時期を見て支援している。ゆず湯や菖蒲湯、入浴剤を変えながら、気持ち良く楽しんで入浴していただけるよう心がけている。入浴を拒否する利用者には話術で巧みに誘っている。	入浴を拒否する利用者の面倒な気持ちや服の着脱を手伝ってもらうのは申し訳ない心情を受け止めて、利用者の負担にならないように利用者が受け入れてくれる言葉を見つけて誘い、入浴し楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムを把握して、その時々体調や状況に応じて休息を取っている。温度計を確認しつつ、室内の温度をエアコンで調節したり、冬場は湯たんぽを利用して気持ち良く眠れるように支援したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が服薬している薬を表にまとめて、職員が分かりやすい場所に貼って確認をしている。各利用者のファイルに薬の説明書を綴っている。また、薬に変更があるときは、口頭と申し送りノートに記入して、職員全員が分かるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、洗濯物たたみ、新聞折りなどを頼み張り合いを持って行っていただいている。歌を歌ったり、読み聞かせをしたり、昔の話をして気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族と共に外出したり、季節毎にホームで計画して花見、祭り、紅葉狩り等を行っている。本人の希望により、時々近所に散歩に出かけたり、庭に出たりしている。	利用者の身体状況や体調をみて、散歩をしたり、庭の芝生でお茶を飲んだり、ドライブに出かけたりして、気分転換ができるようにしている。その他、小学校の運動会や牧場で動物と触れあうこともある。外出時の車中では普段は歌っていない童謡の2番、3番まで歌うなど、事業所では見られない場面が見られる機会となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の紛失で、不安やトラブルが発生しないよう所持していない。お金の管理を理解している利用者はおらず、希望に沿って必要な時に使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を取り次いだり手紙の代筆をしたり、利用者の気持ちに添えるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝日の当たる玄関にはソファが置かれ、童謡やナツメロが流れ、四季折々の草花を眺めたり外を走る車を数えたり、また、訪問者との会話を楽しむ集いの場となっている。ホームの庭には畑があり、野菜作りを楽しみにしている。ホールには行事の写真飾り、天井は吹き抜け天窓があり、心地よい憩いの場となっている。	事業所は小高い場所にあるので、遠くまでよく見える環境にある。事業所周辺は桜や梅の木々があり自然に囲まれており、庭には四季折々の花が咲き、畑には野菜が植えられている。玄関も広々としており、2つソファが置かれて、外を眺めゆっくりできる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	器のあった利用者同士が会話やレクリエーションを楽しめるよう、テーブル席の配置を工夫している。ホールソファで新聞や絵本を見たり外の景色を眺めたり、気に入った場所で過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら本人のお気に入りの家具(衣類)、小物、写真等を備え付けている。安心する使い慣れた寝具を持ち込んでいる。日射が強い季節になると、居室の窓の外に日よけとしてよしずを立てかけ、心地よく過ごせるように工夫している。	家にいる時と同じような気持ちで生活してもらいたいとの考えで、椅子や机、タンスなど、自宅で使い慣れたものを持ってきていただいている。気に入った写真は、壁に貼ったりしている。居室の窓の外には、日除けとしてよしずを立てかけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内には、手すりや足元灯が取り付けられている。ホールのテーブルや椅子等角が丸くなっている。分かりやすいように動物や乗り物のネームプレート、トイレ表示案内等工夫している。歩行や移動が安全にできるように、空間を広く配置している。		